

令和4年4月20日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	イネミズゾウムシ	やや少 予想発生時期 並	2月越冬量：やや少(-) 気象予報：気温高(+) 3月1日以降の有効積算温度 ：並	<ul style="list-style-type: none"> 常発地や昨年多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。 移植10日後ごろの飛来成虫数が2~3株に1頭以上の時は、成虫を対象に薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	少	2月越冬量：少(-)	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯病を媒介する。 昨年、栽培期間中や再生株で縞葉枯病が多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	並	2月越冬量：並	<ul style="list-style-type: none"> 越冬成虫の水田への侵入時期は5月下旬から6月である。 苗箱処理剤での防除では6月まで効果の持続する薬剤を選択する。
	イネドロオウムシ	並	前年の発生量：並	<ul style="list-style-type: none"> 常発地や昨年多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。 侵入最盛期(5月中旬ごろ)の飛来成虫数が10株に2頭以上の時は、薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	並	冬季気温(12~2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値)：並 前年6月の発生量 ：やや多(+) 前年6月の被害株率 ：やや多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県HPに掲載されている以下の資料を参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (リーフレット) https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	多	4月上旬発生量：多（+） 気象予報：日照時間少か並（+）	・ 被害茎葉は、施設外に持ち出し、適切に処分する。
	灰色かび病	多	4月上旬発生量 ：やや多（+） 気象予報：日照時間少か並（+）	・ 施設内の換気を良くし、湿度を下げる。 ・ 被害果や被害茎葉は施設外に持ち出し、適切に処分する。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。</u>
	コナジラミ類	並	4月上旬発生量 オンシツコナジラミ ：並〔発生なし〕 タバココナジラミ ：並〔発生なし〕 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 日照時間少か並（-）	・ 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 ・ 栽培終了時にはハウス内を除草、トマトを抜根した状態でハウスを密閉し、完全に枯死させて本虫を死滅させる。
ス イ カ	つる枯病	やや多	4月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（+）	・ ほ場の排水を良くする。 ・ 多湿を防ぐため、トンネルの換気を適切に行う。
	アブラムシ類	並	4月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ ほ場周辺の雑草を除去する。 ・ 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、丁寧にやる。 ・ 繁殖が早く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さずに早期防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	並	4月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	
温 州 ミ カ ン	そうか病	並	3月下旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（+）	・ 新梢の長さ1cmくらいが防除適期である。
	ミカンハダニ	やや少	3月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ 冬期防除を見合わせていた園地では4～5月に防除を行う。 ・ マシン油乳剤（97%）は使用時期で希釈倍率が変わるので注意する。
カ ー ネ ー シ ョ ン	ハダニ類	並	3月下旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	アザミウマ類	少	3月下旬発生量：少（-） 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ビワを加害するカメムシ類の発生について

ビワを加害する果樹カメムシ類は、チャバネアオカメムシを主体として、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシである。3種とも成虫で越冬し、越冬量が多い年には、5月中旬頃から6月にかけて収穫時期となるビワに多大な被害をもたらすことがある。

昨年10月にチャバネアオカメムシ早期発生予測モデルを用いて本年度の発生量を予測した結果、多発生と予想された（令和3年度病害虫発生予報第7号P7Ⅲその他の情報を参照）。

その後、冬季に実施した越冬量調査では、県内全体では平年並であった（令和3年度病害虫発生予報第11号P3を参照）が、安房地域だけで見た場合、過去10年の中で2014年と同程度の捕獲数となり多発生となった（図）。

4月から調査を開始した果樹予察灯は、例年同様、4月13日時点ではいずれの果樹カメムシ類も捕獲されていない。一方、館山市に設置しているチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでは、3月下旬から少数であるが捕獲されている。

今後の果樹予察灯やフェロモントラップ、5月上旬に実施する桜樹での果樹カメムシ類払い落とし調査の結果は次回の発生予報で発表するが、平均気温が上昇すると果樹カメムシ類の活動が活発になり、ビワの果実被害が発生することが懸念される。4月14日に発表された向こう1か月の気象予報では、気温が平年より高くなる確率が70%と予報されており、今後本虫は多発生となる可能性が高いので注意が必要である。

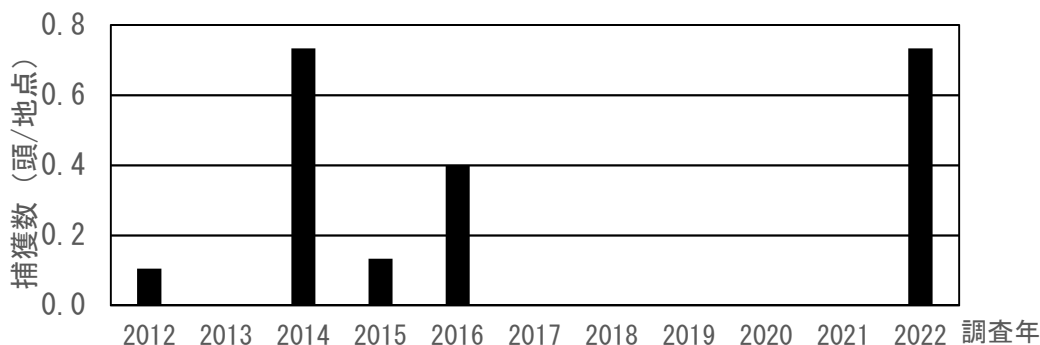


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫調査結果

注1) 調査地点は安房管内5地点で、捕獲数は5地点の平均値である。

2) 調査は1㎡の範囲の落ち葉を集め、その中で越冬しているチャバネアオカメムシの数をカウントした。調査場所は1地点当たり3か所。

<防除対策>

1 果樹カメムシ類は、各種樹木の果実等を移動しながら吸汁しており、果樹園への飛来状況は地域や園により異なるので、園内をこまめに見回り、飛来を確認したら早急に薬剤防除を行う。

2 露地ビワは5月下旬から収穫期に入るため、収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

表 ビワに適用のあるカメムシ類の主な防除薬剤

IRACの作用機構分類	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数
3A	テルスター水和剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで/2回
	テルスターフロアブル	3,000倍	
	ロディー水和剤	2,000倍	
4A	アドマイヤーフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/2回
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで/2回
	ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回

注1) 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

2) IRAC（殺虫剤抵抗性対策委員会）による殺虫剤作用機構分類は次のとおりである。

3A：ピレスロイド系 4A：ネオニコチノイド系

Ⅲ その他の情報

令和3年度における農作物の主要病害虫の発生状況について

○気象概況 (千葉市)

		日平均気温(°C)			月間降水量(mm、%)			月間日照時間(hr、%)		
		本年	平年	差	本年	平年	比	本年	平年	比
2021	1月	6.0	6.1	-0.1	41.0	67.5	61	182.4	191.6	95
	2月	9.2	6.6	2.6	60.5	59.1	102	218.9	165.3	132
	3月	13.2	9.6	3.6	129.5	111.3	116	174.0	167.5	104
	4月	15.3	14.5	0.8	115.5	110.4	105	223.7	177.0	126
	5月	20.0	18.9	1.1	110.0	122.3	90	155.3	180.5	86
	6月	22.8	21.9	0.9	114.5	150.9	76	142.7	126.9	112
	7月	26.0	25.7	0.3	395.0	136.5	289	178.4	162.7	110
	8月	27.7	27.1	0.6	263.5	115.7	228	193.6	189.4	102
	9月	22.8	23.8	-1.0	139.0	204.7	68	115.4	134.6	86
	10月	18.8	18.6	0.2	209.0	225.7	93	167.7	131.6	127
	11月	14.7	13.4	1.3	96.5	94.1	103	208.9	143.6	145
	12月	8.7	8.6	0.1	160.5	56.8	283	208.9	174.8	120
2022	1月	5.5	6.1	-0.6	15.5	67.5	23	199.2	191.6	104
	2月	5.9	6.6	-0.7	72.0	59.1	122	204.7	165.3	124
	3月	10.9	9.6	1.3	95.0	111.3	85	181.2	167.5	108

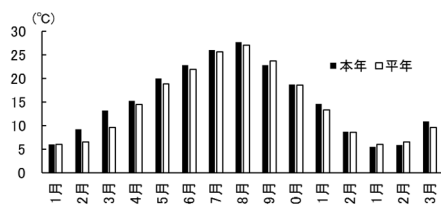


図1 日平均気温の月別平均値

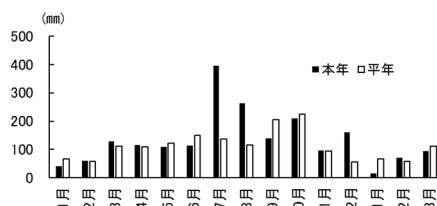


図2 月間降水量累計値(千葉市)

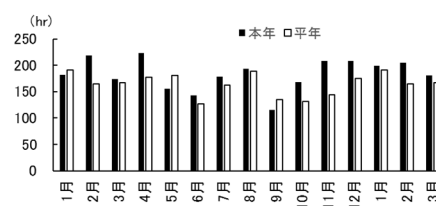


図3 月間日照時間累計値(千葉市)

気温：2、3月はかなり高く、4～6月は高く推移した。

降水量：7～8月、12月に多かった。

日照時間：2、4、11、12月はかなり多かった。

参考：梅雨入り：6月14日頃(平年6月7日) 梅雨明け：7月16日(平年7月19日)

○病害虫発生状況(巡回調査・フェロモントラップ調査)

1 イネ(4～8月上旬調査)

病害虫名	調査項目	育苗期	5月7日 基準日	6月2日 基準日	6月18日 基準日	7月2日 基準日	7月16日 基準日	7月30日 基準日	収穫期
いもち病	発病苗箱率	並							
	葉いもち発病株率			並	並	多	やや多	やや多	
	葉いもち上位2葉 発病葉率							多	
	穂いもち発病株率							多	多
ばか苗病	発病苗箱率	やや多							
スクミ リンゴガイ	被害株率		並	やや多					
	貝密度(/㎡)		やや多	やや多					
大型斑点米 カメムシ類	捕獲成幼虫数					多	やや多	やや多	やや少

2 普通作物

(1) サツマイモ（6～9月上旬調査）

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月
ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	並	並	並	多
ナカジロシタバ	寄生幼虫数	並	並	やや少	やや少
イモキバガ	被害葉率	並	並	やや少	並
イモキバガ以外	被害葉率	やや多	やや多	やや多	やや多

(2) ラッカセイ（7～9月上旬調査）

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月
茎腐病	発病株率	並	やや多	並
白絹病	発病株率	やや多	やや少	少
ヒョウタンゾウムシ類	被害株率	多	並	並

3 野菜

(1) スイカ（トンネル栽培）（4～6月上旬調査）

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月
うどんこ病	発病葉率	並	並	多
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	多
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	やや多	並	並

(2) サトイモ（6～9月上旬調査）

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月
汚斑病	発病葉率	並	並	やや多	並
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	並	やや多	並	並
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	やや多	並	並	並

(3) 夏秋トマト（6～9月下旬調査）

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月
萎凋症	萎凋株率	並	やや多	並	やや多
葉かび病	発病株率	並	並	やや多	やや多
灰色かび病	発病株率	並	多	並	並
灰色かび病	発病果率		並	やや多	やや多
黄化葉巻病	発病株率	並	やや多	やや多	多
うどんこ病	発病株率	並	やや多	多	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	多	やや多	やや多	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	並	多	多	多
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	並	並	多	多

(4) 冬春トマト（12～4月上旬調査）

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや多	並	多	多
灰色かび病	発病株率	並	やや多	並	やや少
灰色かび病	発病果率	並	並	並	やや少
黄化葉巻病	発病株率	並	多	多	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	並	並	並	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	やや多	並	多	多
ハスモンヨトウ	被害株率	やや多	並	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	多	並	並	並

(5) 秋冬ネギ（7～12月上旬調査）

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さび病	発病度	多	並	並	並	やや多	並
べと病	発病株率	やや多	並	並	並	並	並
アブラムシ類	寄生株率	並	並	並	やや多	やや多	やや多
ハスモンヨトウ	被害株率	並	並	並	やや多	多	多
シロイチモジヨトウ	被害株率	並	並	多	多	多	多
ネギコガ	被害株率	並	やや多	並	やや多	多	多
ネギハモグリバエ	被害度	並	やや少	やや多	多	多	多

(6) 冬レタス（11～2月上旬調査）

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	並	やや少
オオタバコガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並

オオタバコガは発生なしの並

(7) イチゴ（10～3月上旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや少	やや少	並	少	少	やや少
灰色かび病	発病株率	並	並	並	並	少	少
アザミウマ類	成幼虫寄生株率	並	並	やや多	多	多	多
ハスモンヨトウ	被害株率	やや多	やや多	並	並	やや多	やや多
コナジラミ類	寄生株率	やや多	並	並	多	やや多	並

(8) 冬キャベツ（10～2月上旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	やや多	並	やや多
黒腐病	発病度	並	並	やや多	並	やや多
腐敗病	発病株率	並	並	並	並	多
ヨトウガ	卵幼虫寄生株率	多	並	並	並	並

(9) 春キャベツ（12～4月上旬調査）

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
タマナギンウワバ	寄生幼虫数/25株	並	多	並	並

(10) 冬春キュウリ（11～2月上旬調査）

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
うどんこ病	発病葉率	並	やや少	並	多
べと病	発病葉率	やや少	並	多	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	多	並	並	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	やや多	並	少	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	多	やや多	やや多	並
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	多	多	多	多

(11) チョウ目害虫（フェロモントラップ調査）

病害虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ハスモンヨトウ	やや多	多	多	並	やや少	やや少	やや少	やや少	並	並	並	並
コナガ	多	多	多	並	並	並	並	並	並	やや多	やや多	並
シロイチモジヨトウ	-	多	多	多	やや多	多	多	多	多	多		

4 果樹

(1) ナシ（4～9月下旬調査）

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月
黒星病	発病果率	やや多	並	並	やや少	やや少	
炭疽病	発病新梢率	並	並	並	並	多	多
シンクイムシ類	被害果率	並	並	並	やや多	並	
ハマキムシ類	被害果率		並	並	多	多	
ハダニ類	寄生葉率	並	並	やや少	少	並	やや多
吸ガ類	被害果率		並	並	多	並	

(2) カンキツ（温州ミカン）（3～11月下旬調査）

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
かいよう病	発病葉率	多	多	多	やや多	やや多				
かいよう病	発病果率				多	並	並	並	並	
そうか病	発病葉率	やや多	やや多	やや多	やや多	並				
そうか病	発病果率				多	やや多	やや多	やや多	並	
黒点病	発病果率				並	並	やや少	多	多	
ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率	やや多	少	少	やや少	やや少	多	並	やや少	少
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率	並	並	多	並	並	やや少	並	やや少	

(3) ビワ（3～5、9～10月下旬調査）

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月		9月	10月
灰斑病	発病葉率	並	並	並		少	やや少
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	並		並	並
カミキリムシ類	被害穴数	やや多	やや少	やや少		やや少	やや少
カメムシ類	寄生果率		並	並			

(4) 果樹共通：果樹カメムシ類（フェロモントラップ調査）

病害虫名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
カメムシ類	並	少	少	やや少	並	並	多	多
シンクイムシ類	やや多	やや多	やや多	多	やや多	多	多	やや多
ハマキムシ類	やや多	並	並	並	並	やや多	多	多

5 花き

(1) カーネーション（9～3月下旬調査）

病害虫名	調査項目	9月	10月	11月	12月	1月	2月
立枯病	発病株率	並	やや少	やや少	並	やや多	並
萎凋病	発病株率	やや多	並	やや少	やや少	やや少	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	やや多	やや多	やや多
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	やや多	並	並	並	並	並

(2) ストック（10～2月下旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
(施設)コナガ	幼虫寄生株率	並	やや少	やや少	並	並
(露地)コナガ	幼虫寄生株率	やや少	やや少	やや少	やや少	並

菌核病、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ 発生認められず。

● 特殊報、警報、注意報の発表状況

1 特殊報

令和3年7月15日 第1号 サツマイモ基腐病の県内初発生について

令和3年8月20日 第2号 ウメ輪紋病の県内初発生について

農薬登録情報

イミダクロプリドの登録内容の変更

令和3年9月に以下のとおり登録内容が変更されたので、使用には十分注意する。

変更点が多岐にわたるため、使用する前には、農協や農業事務所、メーカーのホームページなどで変更点を確認してから使用する。

農薬名	変更内容			
	作物削除	落花後の 使用に限る	着果後の 使用に限る	施設における 使用に限る
アドマイヤー 1粒剤	豆類（種実、ただし、だいずを除く）、だいず、非結球あぶらな科葉菜類、なばな類、ズッキーニ			
アドマイヤー 水和剤	稲	りんご、なし、もも、ネクタリン、ぶどう（散布）、かき、うめ、すもも、くり	すいか、メロン	きゅうり（散布）、にがうり、ピーマン
アドマイヤー フロアブル	とうもろこし、ヤングコーン、ズッキーニ、非結球あぶらな科葉菜類（みずなを除く）	かんきつ、びわ、もも、なし、あんず、ぶどう、キウイフルーツ、つつじ類（散布）、デイゴ、れんこん、未成熟そらまめ	すいか、メロン、かぼちゃ	きゅうり、ピーマン、オクラ、未成熟ささが、食用ぎく、きく（葉）、ポインセチア
アドマイヤー 顆粒水和剤	とうもろこし、ズッキーニ、うり類（漬物用）、豆類（種実）、茶	かんきつ、りんご、うめ、すもも、なし、もも、ネクタリン、ぶどう、かき、げっきつ、とうがらし類、豆類（未成熟、ただし、未成熟そらまめを除く）、未成熟そらまめ	すいか、メロン、かぼちゃ	ピーマン、きゅうり、にがうり、きく
アドマイヤー プラスプロア ブル		かんきつ		

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：4月上旬、果樹・花き：3月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	イネミズゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.10	1.55	0.23	前年7月調査 前年6月調査 前年6月調査 前年6月調査	
		イネゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.17	0.26		0.31
		イネクロカメムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.03	0.10		0.00
	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ スクミリンゴガイ	25株当たり寄生成幼虫数	0.03	0.71	0.17		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	0.83	2.46	2.02		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	0.54	2.96	1.15		
		25株当たり寄生成虫数	0.13	0.43	0.37		
		被害株率(%)	2.13	0.84	4.06		
	1㎡当たり貝数	0.25	0.19	0.70			
冬春トマト (海匝、長生)	うどんこ病	発病株率(%)	9.60	1.91	2.00		
		灰色かび病	発病株率(%)	19.60	11.72		44.00
		発病果率(%)	0.10	0.30	0.61		
		果実発病度	0.70	1.73	3.90		
	葉かび病	発病株率(%)	0.00	0.20	0.40		
		アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.08		0.00
		黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	0.14	0.43		
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	1.00	0.40		
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.08	0.00		
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.22	3.65	4.82		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.40	0.32	1.60		
アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00			
春キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率(%)	0.00	1.62	3.00		
		黒腐病	発病度(%)	0.00	0.10		0.00
	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	1.84	15.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	4.80	1.59	0.00		
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.21	0.50		
トンネルスイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.16		0.00
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.08	0.20		
	ウリハムシ	寄生成虫数	0.00	0.00	0.00		
ハウススイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00		0.00	2021~	
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.40			0.20
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00		0.00		
	ウリハムシ	寄生成虫数	0.00		0.00		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.00	0.20	0.60		
	かいよう病	発病度	0.04	0.04	0.36		
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	4.98	4.40		
ビワ(安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.00	4.48	5.25		
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.08	0.25		
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率(%)	0.00	1.34	0.00		
		立枯病	発病株率(%)	1.60	1.02		1.60
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	1.14	0.00		
		被害株率(%)	0.00	11.76	9.60		
		黄色粘着トラップ誘殺数	1.45	6.00	2.50		
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	0.00	2.02	8.80		

トラップ月間誘殺数(3月)

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数(頭/日)			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匝、安房	0.4	0.7	2.0	
性フェロモン	ハスモンヨトウ	海匝	0.0	0.1	0.2	

○気象予報

4月14日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

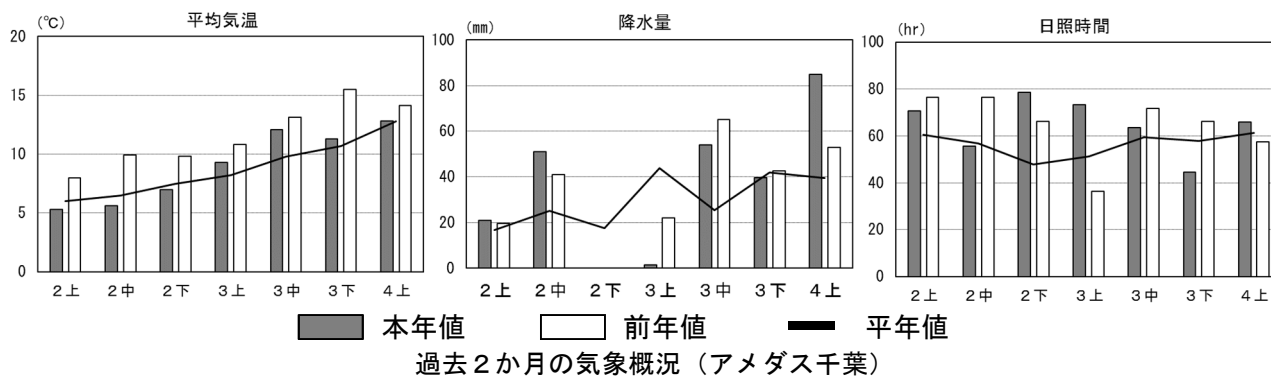
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(4月16日～5月15日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.8	15.7	16.6
降水量(mm)	101.6	116.8	144.6
日照時間(hr)	175.6	181.8	179.4

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は5月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

